

多奈川ビオトープ



生きもの図鑑 2023



カワセミ

多奈川ビオトープ企画・運営会議

南海電気鉄道(株)・岬町・大阪府・
(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所・
日本ビオトープ管理士会 近畿支部

多奈川ビオトープとは…(I)

★「多奈川ビオトープ」は、岬町の「いきいきパークみさき」（多奈川地区多目的公園）の中
にあります。

★かつて、この場所は山や谷が広がっており、たくさんの生きものが暮らしていたのではな
いかと思いますが、「関西国際空港」第二期事業の土砂採取場所となり、跡地は「多目
的公園」として整備されました。

★その多目的公園の一角に、約**2.5ha**の「多奈川ビオトープ」があり、かつてここに暮らし
ていた生きものたちを呼び戻そうと、彼らの生育・生息場所となる湿地や草地を創出・
維持管理したり、もともとこの場所に生育していた樹木を植栽するなど、「自然再生」に
取り組んでいるところです。

★ボランティアによる「自然再生活動」だけでなく、「自然観察会」などのイベントも計画し
ておりますので、皆様も一度お越しになられてはいかがでしょうか。



多奈川ビオトープとは…(Ⅱ)



2001



2006



2023



自然再生【土砂採取終了後の活動】



生きもの地図づくり

この『生きもの図鑑』は、毎回の「自然観察会」の記録と「生きもの地図」を元に作成しました。



虫や鳥、草花を調べて記録します!



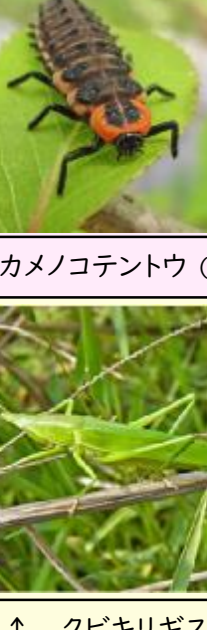


観察記録から『生きもの地図』を作ります



生きもの地図

春 (3~5月頃) の多奈川ビオトープ ①

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| ↑ オオタカ | ↑ ウグイス | ↑ ホオジロ |
|  |  |  |
| ↑ シロスジカミキリ | ↑ コオイムシ (♂) | ↑ アマガエル (ニホンアマガエル) |
|  |  |  |
| ↑ アシナガオトシブミ | ↑ カメノコテントウ (産卵) | ↑ クマバチ (キムネクマバチ) |
|  |  |  |
| ↑ シロオビアワフキ (幼虫) | ↑ カメノコテントウ (幼虫) | ↑ ヤナギハムシ (成虫) |
|  |  |  |
| ↑ ケラ | ↑ クビキリギス | ↑ ジョウカイボン |

春(3~5月頃)の多奈川ビオトープ ②



↑ カラスノエンドウ



↑ カスマグサ



↑ スズメノエンドウ



↑ ホトケノザ



↑ タネツケバナ



↑ ナズナ



↑ クヌギ(開花)



↑ ヒメオドリコソウ



↑ アケビ(雄花)



↑ ホタルカズラ



↑ ナルトサワギク(セイヨウミツバチ)



↑ 春のビオトープ池

夏 (6~8月頃) の多奈川ビオトープ ①



↑ ツバメ



↑ オオスズメバチ



↑ ニホントカゲ (幼体)



↑ ニホンカナヘビ



↑ ミンミンゼミ



↑ ツクツクボウシ



↑ クヌギシギゾウムシ



↑ ゴマダラカミキリ



↑ カナブン



↑ アオカナブン



↑ マメコガネ



↑ ナガコガネグモ (♀)



↑ コガネグモ (♀)



夏 (6~8月頃) の多奈川ビオトープ ②



↑ ハラビロカマキリ (幼虫)



↑ シロオビアワフキ (成虫)



↑ カブトムシ



↑ ミズカマキリ



↑ トノサマガエル



↑ ハラビロトンボ (♂)



↑ コオニユリ



↑ カタバミ



↑ オカトラノオ



↑ ガマ



↑ ヒメガマ



↑ 夏のビオトープ池

秋(9~11月頃)の多奈川ビオトープ ①



↑ モズ (♂)



↑ ジョウビタキ (♂)



↑ カルガモ



↑ ツクツクボウシ (♀)



↑ ホシホウジャク



↑ ナナホシテントウ



↑ セイヨウミツバチ



↑ ニホンミツバチ



↑ コガタスズメバチ



↑ コアオハナムグリ



↑ ジョロウグモ (♀)



↑ ナガコガネグモ (卵のう)



↑ チャバネセセリ



↑ シュレーゲルアオガエル (♀)



↑ ヒメジウジナガカメムシ

秋(9~11月頃)の多奈川ビオトープ ②



↑ センニンソウ



↑ ボタンズル



↑ ミゾソバ



↑ アレチヌスビトハギ (左:花 右:実)



↑ コセダングサ



↑ クサギ



↑ クズ



↑ イシミカワ



↑ メダカ (ミナミメダカ)



↑ モクズガニ



↑ 秋のビオトープ池

冬(12~2月頃)の多奈川ビオトープ ①



↑ ノウサギ (左:成体 右:糞)

↑ アライグマ



↑ ジョウビタキ (♂)

↑ メジロ

↑ カワセミ



↑ オオバン

↑ コガモ

↑ ヨモギハムシ (ペア)



↑ ウスタビガ (繭(まゆ)の抜け殻)

↑ クヌギエダイガフシ (虫こぶ)

↑ ヨモギクキワタフシ (虫こぶ)



↑ モリチャバネゴキブリ (幼虫)

↑ チャミノガ (ミノムシ)

↑ オオミノガ (ミノムシ)

冬 (12~2月頃) の多奈川ビオトープ ②



↑ はやにえ (オオスズメバチ)



↑ はやにえ (トノサマバッタ)



↑ オオカマキリ (卵鞘)



↑ ハラビロカマキリ (卵鞘)



↑ チョウセンカマキリ (卵鞘)



↑ コガタスズメバチ (古巣)



↑ ガマの穂



↑ ノイバラ (果実)



↑ ホトケノザ (左は白花)



↑ ヤマアカガエル (卵塊)



↑ ウシガエル (オタマジャクシ)



↑ 冬のビオトープ池

多奈川ビオトープを舞うチョウ



↑ モンキアゲハ



↑ ヒカゲチョウ



↑ クロヒカゲ



↑ ルリタテハ



↑ アカタテハ



↑ キタテハ



↑ コムラサキ



↑ アサマイチモンジ



↑ テングチョウ



↑ ウラギンシジミ



↑ アカシジミ



↑ ムラサキシジミ



↑ ミズイロオナガシジミ



↑ コミスジ



↑ ツバメシジミ

※ 季節によって、飛んでいる種類が違ったり、同じ種類でも翅の色が違っていたりします。

多奈川ビオトープを飛ぶトンボ



↑ オニヤンマ



↑ ギンヤンマ (産卵)



↑ タイワンウチワヤンマ



↑ フタスジサナエ



↑ ショウジョウトンボ (♂)



↑ チョウトンボ



↑ ハラビロトンボ (♀)



↑ コフキトンボ



↑ ヨツボシトンボ



↑ ベニトンボ (♂)



↑ ハグロトンボ (♂)



↑ オオアオイトトンボ (産卵)



↑ アオイトトンボ (産卵)



↑ オツネトンボ



↑ ホソミオツネトンボ



↑ アオモンイトトンボ (ペア)



↑ クロイトトンボ



↑ ムスジイトトンボ



タイリクアカネ



キトンボ



多奈川ビオトープを飛ぶ 赤トンボ



↑ アキアカネ



↑ タイリクアカネ



↑ ネキトンボ



↑ キトンボ



↑ マユタテアカネ



↑ マイコアカネ



↑ ナニワトンボ【青いアカトンボ】



↑ リスアカネ



↑ コノシメトンボ

多奈川ビオトープを跳ぶ **バッタ**の仲間



↑ マツムシ



↑ クビキリギス



↑ クルマバッタ



↑ トノサマバッタ (ペア)



↑ キリギリス (ニシキリギリス)



↑ コバネイナゴ



↑ オンブバッタ (ペア)



↑ サトクダマキモドキ



↑ ショウリョウバッタ (左:緑色型ペア・中:中間型♀・右:褐色型♀)



↑ ツチイナゴ (左:幼虫 右:成虫)



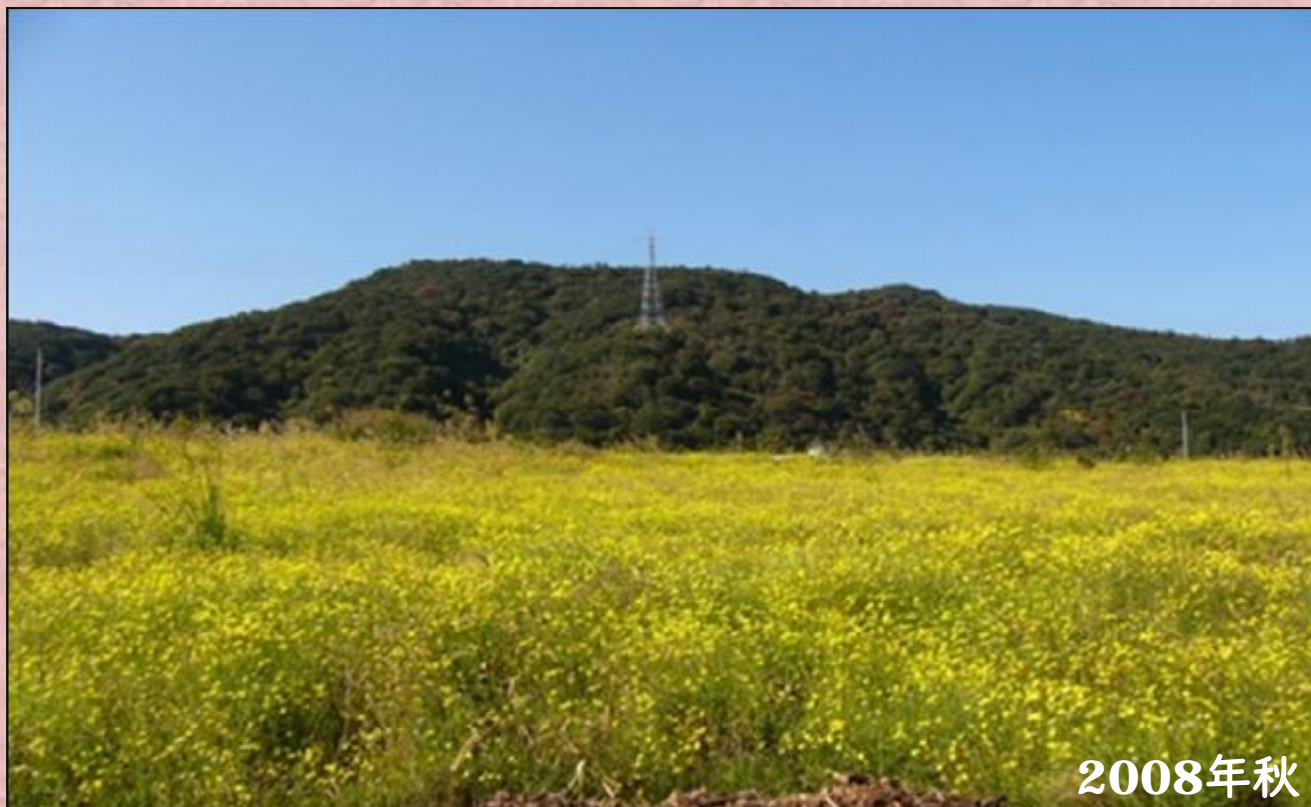
↑ オオカマキリ

※ バッタの仲間は、同じ種類でもその体色が「緑色」や「褐色」のものなどがあります

植生遷移 ①



- ★10年くらい前までは「ナルトサワギク」(特定外来生物)が全域に広がっていましたが、次第に「セイタカアワダチソウ」や「ススキ」が入り込み始めました。
- ★そして今では…、「セイタカアワダチソウ」と「ススキ」の2種が「競合」しています。(かつての勢いを失った「ナルトサワギク」は、年々衰退が著しいようです…)



植生遷移 ②



- ビオトープ池の大半が『ヒメガマ』に覆われて、トンボの種数が減り、ツバメは姿を消しました…
- そこで、**2020年3月**から「ヒメガマ保全区域」を定め、その区域外の個体の伐採を続けています。



食物連鎖 ①



■いろいろな生きものたちが「食う 食われる」の関係でつながっている様子を、観察することができます



↑ 「アオモンイトトンボ」が「ムスジイトトンボ」を捕食



↑ 「クロイトトンボ」が 小さな虫 を捕食



↑ 「アオメアブ」が 小さな虫 を捕食



↑ 「シオヤアブ」が「コアオハナムグリ」を捕食



↑ 「シオカラトンボ(♀)」が、「ハナアブ」を捕食



↑ 「ハラビロカマキリ」が「ツクツクボウシ」を捕食

食物連鎖 ②



- 今回紹介した「カマキリ」や「クモ」たちはみんな、生まれながらのハンター！
- 自力で獲物を捕獲しないと、生きてはいけません（チョウゲンボウは、ヒナ鳥の間は親から給餌を受けます）



↑ 「オオカマキリ」が「ミツバチ」を捕食



↑ 「オオカマキリ」の♀が、交尾中にみを食べる



↑ 「コガネグモ」が「コアオハナムグリ」を捕食



↑ 「ナガコガネグモ」が「シオカラトンボ」を捕食



↑ 「ヒメハナグモ」が 蛾の仲間 を捕食



↑ 「チョウゲンボウ」が「ツチイナゴ」を捕食

食物連鎖 ③



■「モズ」のはやにえの画像を集めてみました。(晩秋の頃がを見つけやすいですね!)



↑ クマバチ (キムネクマバチ)



↑ クビキリギス



↑ ツチイナゴ



↑ ハラビロカマキリ



↑ トゲナナフシ



↑ トビズムカテ

ゴマダラチョウの観察

- 「多奈川ビオトープ」のエリア内には、何本かの「エノキ」の木が大きく育っています。
- 「ゴマダラチョウ」は年3回くらい発生するのですが、秋にエノキの木で産まれた幼虫は、12月頃になると根元まで降りてきて、落ち葉の裏側に隠れて越冬することが多いようです。



↑ クヌギの木で樹液をなめています



↑ 地面で水を飲んでしています。口吻は黄色い！



↑ エノキの葉に産卵



↑ 卵を拡大して見ると...



↑ エノキの落ち葉の裏で越冬中



↑ 春になると再び木に登って葉を食べます

虫たちの羽化や脱皮の観察



- 「多奈川ビオトープ」の自然観察会では、羽化中や脱皮中の虫たちに出会うことがあります。
- それらの中から、「ナナホシテントウ」や「カメノコテントウ」、「ヤナギハムシ」の羽化の様子、「キリギリス」の脱皮の様子を紹介します。



↑ 「ナナホシテントウ」の羽化



↑ 羽化したての「ナナホシテントウ」



↑ 羽化したての「カメノコテントウ」



↑ 「カメノコテントウ」の成虫



↑ 羽化中の「ヤナギハムシ」



↑ 脱皮中の「キリギリス」

ワシ・タカ・ハヤブサの仲間



- 「トビ」や「ノスリ」、「ミサゴ」などが上空を舞う姿を、見かけることがよくあります。
- 下記の写真はこのエリア内で撮影。(数値は平均的な全長。ノスリとハイタカは非繁殖期(秋~冬)に飛来します)



↑ トビ (65cm)



↑ ミサゴ (60cm)



↑ ノスリ (55cm)



↑ ハヤブサ (45cm)



↑ ハイタカ (35cm) ※オオタカ (55cm) もいます



↑ チョウゲンボウ (35cm)

自然観察会と自然再生活動、指標生物



■ ボランティアを中心に、「自然観察会」の開催や「自然再生活動」が行われています。



↑ 自然観察（トンボの種を確認）



↑ 自然観察（虫こぶを割ってみると…）



↑ 自然観察（湿地の生きものを解説）

自然再生進捗の指標生物



5年後：カブトムシやクワガタムシがいるピオトープ



10年後：リスやウサギが暮らすピオトープ



30年後：クマタカの舞うピオトープ



↑ 多奈川ピオトープでの「指標生物」



↑ 自然再生活動（湿地の水草取り）



↑ 自然再生活動（草地管理）

現在の多奈川ビオトープ (2022年11月撮影)



Kumataka
Southern
Biotope
In
Tanagawa



目指せ！
クマタカの舞う
「多奈川ビオトープ」



- 主催 : 多奈川ビオトープ企画・運営会議
調査 : 自然観察会に参加された「子どもたち」！
調査計画・指導 : 日本ビオトープ管理士会 近畿支部
図鑑製作 : 池口直樹（日本ビオトープ管理士会 近畿支部）
発行 : 2023年4月 【禁無断転載】

